

常任委員会の動き

第1 常任委員会

《平成24年10月12日開催》報告及び審議事項

総務部

懲戒処分の公表基準の見直しについて
平成24年度留萌市一般会計補正予算（第4号）について

地域振興部

平成24年度地域づくり総合交付金の内示額について
市政懇談会「るもい観光・感動物語」について
平成24年度市民アンケート調査について
留萌市地域公共交通の実施状況について 他

都市環境部

新しいごみ処理（案）の市民等周知状況について
平成24年度10月補正予算（第4号）

《平成24年11月2日開催》報告及び審議事項

総務部

留萌市暴力団の排除の推進に関する条例の制定
留萌市の防災関連事業の進捗状況について
平成23年度財政健全化項目実績について 他

地域振興部

平成24年度ふるさと会の開催状況について
水資源保全地域の指定にかかる北海道への提案



農水産資源の商品開発視察

都市環境部

ごみ処理業務移行に伴う条例改正の内容について
新しいごみ分別排出・収集市民説明会 他
《平成24年11月26日開催》報告及び審議事項

総務部

職員端末機器等の更新について
専決処分の報告（留萌市一般会計補正予算第5号）
平成24年度留萌市一般会計補正予算（第6号）他

地域振興部

平成24年度応援基金の状況について（中間報告）
平成24年度養殖業可能性試験事業について（中間報告）
留萌市における有害鳥獣対策について 他

都市環境部

平成24年度除雪計画について
留萌市廃棄物の適正処理及び環境美化条例の一部改正について
専決処分の報告（損害賠償）他

《平成24年12月12日開催》報告及び審議事項

地域振興部

市道の認定について 他

第2 常任委員会

《平成24年10月11日開催》報告及び審議事項

教育委員会

幌糠小学校閉校問題についての要請書
幌糠小学校閉校問題の経過
留萌市立小中学校適正配置計画ダイジェスト版



平成25年度末をもって閉校が決まった幌糠小学校

《平成24年11月16日開催》報告及び審議事項

市民健康部

< 議案事項 >

平成24年度補正予算（案）について
留萌市看護師等修学資金貸付条例の全部を改正する
条例制定について

< 報告事項 >

留萌市障がい者保健福祉計画（素案）とスケジュール
生活保護就労支援の状況
地域密着型介護（予防）サービスの条例制定について
の概要とスケジュールについて
平成24年度心の健康啓発事業の実施結果について
独居高齢者栄養実態調査について

教育委員会

< 議案事項 >

平成24年度12月補正予算関係
留萌市立小中学校設置条例の一部改正について

< 報告事項 >

平成24年度教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検・評価報告書について
留萌小学校改築基本設計作成に係る意見聴取会等の
開催状況について
市立留萌図書館蔵書盗難にかかる損害賠償について

市立病院

< 議案事項 >

留萌市立病院看護師等修学資金貸付条例の制定について

< 報告事項 >

平成24年度患者集計表（10月分）について

議会です こんにちは

もくじ

- P 14 平成24年第4回定例会議決事項
- P 15 常任委員会の動き
- P 16～20 第4回定例会一般質問項目
- P 20 組合議会報告ほか
- P 21 議会活性化推進特別委員会からの報告ほか

平成24年第4回定例会（12月4日から12月12日）で可決されました報告2件、議案13件、意見書2件の内容を紹介いたします。

報 告

- 第26号 専決処分の報告について（平成24年度留萌市一般会計補正予算（第5号）について）
- 第27号 専決処分の報告について（損害賠償について）

議 案

- 第60号 平成24年度留萌市一般会計補正予算（第6号）
- 第61号 平成24年度留萌市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）
- 第62号 平成24年度留萌市港湾事業特別会計補正予算（第2号）
- 第63号 留萌市暴力団の排除の推進に関する条例制定について
- 第64号 留萌市看護師等修学資金貸付条例の全部を改正する条例制定について
- 第65号 留萌市廃棄物の適正処理及び環境美化に関

する条例の一部を改正する条例制定について

第66号 留萌市下水道条例の一部を改正する条例制定について

第67号 留萌市立病院看護師修学資金貸付条例制定について

第68号 留萌市立小中学校設置条例の一部を改正する条例制定について

第69号 留萌南部衛生組合の共同処理する事務の変更及び規約の変更について

第71号 留萌市議会政務調査費交付条例の一部を改正する条例制定について

第72号 留萌市議会委員会条例の一部を改正する条例制定について

第73号 留萌市議会会議規則の一部を改正する規則制定について

意 見 書

第19号 次代を担う若者世代支援策を求める意見書

第20号 防災・減災体制再構築推進基本法（防災・減災ニューディール基本法）の制定を求める意見書

平成24年 第4回定例会

一般質問と答弁を
ご紹介いたします

菅原千鶴子 議員
(民主クラブ)

- 一、高齢者を取り巻く課題と今後の展望
- 二、高齢者率増加と住みやすさ
- 三、高齢者の社会参加と受け皿
- 四、高齢者と除雪対策
- 五、地域協働とお互い様の境界
- 六、個人負担と行政負担
- 七、留萌市の子供施策
- 八、保育体制と利用状況
- 九、二次代を担う青少年健全育成と留萌市の取り組み
- 十、心の健康啓発と留萌市のとらえ方
- 十一、現在の取り組み
- 十二、今後の取り組み

け合うことの素晴らしさと、人的要因の不足によるむずかしさが見えてくる。多くの高齢者が住み慣れた町で暮らし続けることを願ってはいるが、高齢になるとさまざまな不便や危険が増加してくる。買い物難民と呼ばれる問題や、要介護者の住宅の除雪など細かな支援が必要であり、問題山積である。新たな受け皿について行政として、取り組んでいかなければならないと思うが、市長の考えを聞きたい。

答一 高齢者の現状を包括支援センターを中心としてニーズの把握をし分析をしていきたい。都市整備課や経済港湾課などが連携した細かな支援また、新たな受け皿としての有償ボランティア制度については、今後も研究を続けていきたい。

問二 現在留萌市の保育園は三園で、三〇〇名の定員と

なっているが、現在定員を

オーバーした状態で運営しているが、現行の保育士、保育体制で十分なのか、また待機児童はいるのか、今後の体制をどのように考えているのか聞きたい。

答二 現在定員はオーバーしているが、保育士の加配などで態勢は整っている。待機児童はゼロ才児が一名。平成二十五年からは待機児童を出さずに済むよう、ゼロ歳児定員について萌幼会と協議していきたい。

笹本 牧司 議員
(萌政会)

- 一、地域の活性化について
- 二、観光・感動物語について
- 三、観光基盤整備について
- 四、農水産資源活用事業について
- 五、高齢者福祉について
- 六、高齢者の状況把握について
- 七、介護予防施策について
- 八、介護基盤の充実について

年度は、どうするのか。

答一 今年度、留萌海岸花火大会、レトロバスの運行、観光PR用のパンフレットの作成配布をメイン事業として実施。また直接市の事業ではないが留萌サマーフェスティバルの開催、やん衆横丁の継続等を通じて交流を創出できた。またハード面では、観光基盤の整備や改修も行った。その他、客船の歓迎事業、首都圏での留萌のPR活動等を通じて知名度の向上に努めた。二十五年事業の取り組みについては、観光事業は一過性のものではなく、継続する必要がある。予算は十分ではないが、レトロバスや海岸花火大会等を継続実施するとともに新たに日本ハムファイターズ



カズモちゃんバス

の応援事業などにも取り組んでいきたい。また、子供たちのための宿泊・研修施設について研究していきたい。

問一 今年度、NPO法人るもいコホートピアに委託して独居高齢者の実態調査を実施したがどのようなことが把握できたのか、また今後どのように活用していくのか。

答二 実態調査の結果、八月現在で一、三三三人の独居高齢者がいることが判明。様々な機能が低下する恐れがある高齢者の中で、独居の場合はそのリスクがさらに高くなることを踏まえ居住実態・生活機能、特に栄養に関する調査を継続し、その結果をもとに地域での見守り、社会参加への誘導や介護予防に向けた指導につなげていく。

また、九月以降るもい健康の駅において独居高齢者を対象として無料健診を行っている。その結果約三割の高齢者に心不全の疑いがあることが判明した。受診や治療に誘導する等生活機能低下リスクの程度に応じた取り組みにつなげていく。調査の過程において高齢者の将来に対する不安

野崎 良夫 議員
(無党派)

やすい施設運営を検討したい。

一、冬の市民生活について

二、留萌らしさの戦略は

三、(仮称)冬を楽しく暮らす条例を

四、除雪体制は

五、農業政策について

六、現状と課題は

七、農業委員会よりの建議は

八、空き家対策について

九、取り組みの状況は

十、適正管理に関する条例を

十一、公文書の管理について

十二、公文書管理条例を

問一 留萌市の農業人口や戸数の減少、そして高齢化、更には耕地面積も減少という厳しい現状を行政として、どう押さえているのか。また、その現状によって生じている課題は何か。また、留萌市農業委員会は、「平成二十五年留萌市農業施策に関する建議」を、七項目にわたって留萌市に提出されたが、市長はどう受け止め、どう回答するのか。

答一 十年前と比べて、農業人口は約三十五%減、戸数は

や要望等の把握、特別養護老人施設の待機者の状況を考慮、施設の増設について施設運営者等と協議していきたい。

村山ゆかり 議員
(萌芽クラブ)

- 一、市政運営とまちの課題
- 二、新年度政策と予算編成
- 三、人口減少と対策
- 四、留萌観光振興ビジョン策定について
- 五、外国人研修生受入れ事業と将来展望
- 六、(仮称)留萌市男女共同参画基本計画について
- 七、男女平等参画のモいプランの検証
- 八、新しい計画の特徴
- 九、留守家庭児童会の開館時間延長について
- 十、配偶者からの暴力防止に係る施策

問一 留萌市の観光客入り込みは、微増傾向にあり、更なる魅力アップへの取り組みとして、「留萌観光・感動物語」の具体的取り組みが行われているが、二十五年以降の視点を開きたい。多岐に渡る観光振興事業は成果を揚げているが、留萌市の指針が見えな



ゴールデンビーチ

い。観光振興を図るため、観光に携わる事業者関係団体と市民と観光のあり方を共有して進めるため、「留萌市観光振興ビジョン」の策定が急務。策定期間とビジョンの内容について聞きたい。

答一 観光は、一過性のものではなく、継続していくことが必要。これまで実施した事業も更に磨き上げることも重要。留萌を訪れる方々が観光や食などで楽しんでもらい、知名度向上やおもてなしの結果が、リピーターの増加に繋がると考えており、その指針となる計画が必要と認識している。観光振興ビジョンは、現在策定中で、今年度中の完成を目標としている。また、素案の段階において留萌観光

協会など関係団体と意見交換を予定している。

問二 現在、六つの児童センターがある。利用者から子どもの安全性や犯罪から守る観点で開館時間の延長を求める声がある。児童センターと留守家庭児童会の利用時間延長について考えを聞きたい。

時間延長の方策として、高校生ボランティアや高齢者の協力を得るなど、世代間交流を図りながら、人件費をかけずに延長する方法もあるが、検討いただきたい。

答二 ここ数年、留守家庭児童会利用者は、少子化にも関わらず増加しており、「放課後児童を含めた子どもの居場所」づくりの重要性は増すと認識している。利用者のニーズに応え子どもたちの健全な育成や保護者が安心して就労に臨める環境をつくるため、更に放課後児童対策充実に取り組みたい。十九年の利用者アンケートで、十七・八%が時間延長を望んでいる。その後の社会情勢の変化に伴う新たなニーズの把握を行いたい。開館時間について職員の勤務時間変更も含め、より利用し

屋については、対応に苦慮しているところである。

滝川市や北竜町などで「適正管理に関する条例」が施行されており、留萌管内では、苦前町が条例化している。

この様な状況を踏まえて、更に他市の条例制定や、制定後の対応などの情報も把握しながら、研究していきたい。



危険倒壊家屋

鵜城 雪子 議員 (萌芽クラブ)

一、留萌市の環境問題

(一)市民とのパートナー制度のあり方

(二)ポイ捨て条例の制定に向けて

(三)三泊埠頭周辺地域の生活環境

二、留萌市の防災問題

(一)防災マップの完成時期

(二)自主防災組織率の現状

(三)沿岸地域の防災対策

問一 留萌港三泊埠頭周辺は、

夏は暑くても窓が開けられない。家の外壁や車が真っ黒になる。洗濯物が外に干せない。除雪すると粉塵を吸い込んでしまう、など石炭の粉塵問題に長い間苦しんでいる。

平成十七年に市と業者が結んだ環境保全協定書から、業者は協定書の対策を実行しているが、「防塵・暴風フェンスの設置」を掲げている市の対策は守られていない。

環境の面からも、健康の面からも、港周辺の粉塵対策を抜本から見直す時期にきていると考えるが市長の見解を伺いたい。



三泊埠頭石炭置場

答一 石炭粉塵の地域への負担は大きいと認識をしている。留萌港を管理する市としては物流を止めることなく、地域の皆さんが安心して生活できるように努力しているが、自然

針の進捗度合いと検証について

(一)経済振興について (二)信頼される市役所づくりについて (三)「早寝 早起き 朝ご飯」運動について

問一 留萌市の経済状況が厳しい中で、起業の促進と空き店舗対策に「中小企業振興条例」に基づく助成と、「るもい元気チャレンジ事業」に基づく助成を実施しているが、平成二十四年度、この制度の利用がゼロという結果についてどう考えるか。また、市民が利用しやすくする為、制度の見直しを検討するつもりはあるか。

答一 制度利用が少ない要因としてPR不足が考えられ、広く市民に知られるよう努力する。また、現時点では制度の見直しは考えていないが、商工会議所、商店街、中小企業の方々との意見交換をしたなかで総合的に判断し、時期が来たら検討したい。

問一 子どもが健やかに成長する為、適切な運動調和のとれた食事、十分な休養、睡眠が必要と言われている。し

状況や荷役の増加などから負担をかけ心苦しい。荷役業者と共に解消に努めているが地域の皆さんの要望に満足に対応が取れていないことは十分に認識をしております、できる限り不安を取り除き地域の環境対策と保全に努めていきたい。

問一 防災マップは今年秋に完成の予定となり、さらに担当職員の業務多忙により、来年二月の配布予定となった。管内の他町村では既に津波ハザードマップを含めた防災マップが完成している。冬の電力不足による停電が現実味を帯びている事を考えると災害に加え、停電対策も必要だと考えるが防災マップの完成の遅れが、防災計画全体の遅れとなつている事に対して、市長の見解を伺いたい。

答二 防災マップについては津波避難ビル調査や施設所有者との協議などに時間を費やし、事業実施時期が遅れている。十二月七日に作成業者が決定し、来年一月下旬のデータ完成後、速やかに印刷業者を決定し、二月中旬の納品、二月下旬に町内会を通じて各

かし生活環境の変化から、子供たちの生活リズムが大きく乱れている。こうした乱れが、学習意欲や体力気力の低下の要因と指摘されている。そこで、学習状況調査から、留萌の子供の状況はどうか。また今年度、この運動に対する具体的な取り組みについて伺いたい。



早寝・早起き・朝ごはん

答二 全国学力、学習状況調査によると、留萌の子供は全国、全道に比べてテレビ、ゲームの時間が長く、家庭学習の時間が短い傾向にあるという結果が出ています。子どもの生活リズムを向上させる具体的取り組みとして、小学校入学

家庭に配布したい。

坂本 茂 議員 (無党派)

一、木質バイオマスへの取り組みと地域の経済活性化について

(一)木質チップボイラーについて (二)燃料用チップ生産を軸とする新たな起業について (三)留萌の森林林業の振興について

二、子供たちの教育環境について (一)温水プールの早期再開について (二)主要保護世帯の就学援助について

三、農業委員会の建議について (一)農業委員会の建議について

問一 高騰化する化石燃料、森林林業の振興、地域経済振興などの観点から、化石燃料ボイラーに代えて木質チップボイラーを導入し、チップ生産から間伐材の利用、森林の育成に至る一連の事業を起業し、新たな働き口をつくることもに経済の地域内循環を図ることは今や時代の趨勢。

二〇〇二年に制定されたエネルギー政策基本法は、地

方公共団体は、基本方針にのっとり、エネルギーの自給に閉じ、国の施策に準じて施策を講ずるとともに、その区域の実情に応じた施策を策定し、及び実施する責任を有する」と述べて、地域の資源を活用した再生可能エネルギーへの切り替えを地方自治体の責任と規定しており、この事については、地域の事業者も期待と関心を寄せている。

留萌市が風力に焦点をあてて研究している事はよしとするが、チップの活用をはじめとする木質バイオの検討・研究の機会を市民に呼びかけ、関心のある市民と専門家も交えた検討・研究の機会を設けるきっかけを提供する必要があると思うがいかがか。



チップ原料として 土場に集積された間伐材

答一 木質チップボイラーの導入について、現時点では、

前にリーフレットの配布。学校便り、保健便りでの啓発。PTA総会で保護者への啓発。家庭学習のすすめプリントの配布等、それぞれの学校で取り組んでいる。規則正しい生活習慣と学力が密接に関係していることが明らか事からも教育委員会、家庭、学校が協力し「早寝 早起き 朝ご飯運動」を今後とも進めたい。

村上 均 議員 (留萌公明党)

一、地域防災対策について (一)地域防災計画と市民周知について (二)災害時要援護者対策について (三)協働による防災訓練について (四)防災・減災対策について

二、交通安全対策について (一)留萌市交通安全計画について (二)通学路の安全対策について (三)、公共施設の利用について (一)温水プールがぶるもの再開について (二)廃止施設の再利用について

問一 防災対策の大きな柱に防災減災対策がある。我が国の社会資本は、高度経済成長期に集中的に整備され、建設からすでに三十年から五十年

が経過。劣化する割合は今後さらに加速することが予測され、国も自治体も財政状況が厳しい中で社会資本の老朽化をそのまま放置すれば、今後の維持管理費用の増大は計り知れない。そこで各施設に共通する全般的な老朽化対策や耐震化などの取り組みについてお聞きしたい。

答一 市の主要公共施設のうち、昭和五十六年五月以前に着工した旧耐震基準の施設は二十七施設で、残りの五十施設が新耐震化基準により整備された施設となっている。旧耐震基準の学校は平成七年度から順次、耐震診断を実施し、耐震性の確認を行ってきた。

平成二十二年には、東光小と港南中の体育館の大規模改修と耐震改修を実施し、鉄筋コンクリート造り建築物の劣化度調査を行うための準備として、優先順位付けのための既存施設調査を進めている。

問一 昨年、京都府亀岡市で軽自動車が集団登校中の児童と保護者の列に突っ込み、死者・重軽傷を出すと言った痛ましい事故が発生し、その後、各地で登下校時の児童の死傷

対馬 真澄 議員 (萌芽クラブ)

一、平成二十四年度の市制執行方針及び教育行政執行方

する事故が立て続けに発生した。昨年八月末までに緊急合同総点検が実施されたが、その総点検結果とその後の対応をお聞きしたい。



通学路(堀川町)

【答二】通学路の安全点検は、留萌警察署などと連携して実施した結果として、道幅が狭い・歩道がない・交通量が多い・カーブ周辺で道幅が狭いなどの指摘があった。点検後の協議の結果、カーブミラーや警戒標識の設置やセンターラインの消去による歩行スペースの確保などについて道路管理者が対応し、横断歩道の位置変更の検討などは留萌警察署が対応した。

川口 宏和 議員

(萌芽クラブ)

一、留萌市の景気対策について

- (一) 地域産業の活性化について
- (二) 交流人口の増加に向けて
- (三) 構造改革特別地域の可能性について

二、留萌市のこれからの社会保障について

(一) 高齢者が安心して暮らせるまちづくり

(二) 生活保護受給者に対しての自立支援について

【問一】「観光・感動物語」をかける留萌市としては内需拡大をはかるため観光客を増加させる取り組みが必要である

人口減少や少子高齢化が進む北海道においては移住交流施策は重要であり北海道移住案内「ちよっと暮らしガイド」では、移住や定住希望者を受け入れる格安の宿泊施設を掲載しているが、留萌市において宿泊施設の整備をすすめる考えがあるか聞きたい。



旧幌糠中学校

【答一】移住や定住を考えている人を受け入れる施設としては基本的に市営住宅などの既存施設を考えているが、二十五年事業として考えている子どもたちの宿泊研修施設に移住定住の要素も取り入れていきたい。

【問二】これから高齢化が進み、高齢者の一人暮らしも増え続ける。中でも高齢女性のひとり暮らしが多くて、普段の生活、特に冬の生活に不安を感じている方が多くみられる

そこで二十四年度に第五期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定したが、介護保険制度の適用を受けない独居高齢者の施策について計画策定前後ではどのような変化があったか聞きたい。

【答二】緊急通報システム事業や給食サービス事業の利用促進、地域見守り活動の推進など、見守り事業を充実させている。新たな事業として介護保険などの在宅サービスを利

用せず近隣や身内との交流が少ない高齢者宅の生活援助員が訪問する安否確認訪問事業を開始した。

留萌南部衛生組合議会報告

平成二十四年十二月二十五日留萌南部衛生組合議会(留萌市・小平町・増毛町)臨時議会が開催されました。

主な議決事項は平成二十四年度留萌南部衛生組合一般会計補正予算第二号(二十四年度から、二十五年にかけての予算執行に係る債務負担行為六件)並びに留萌南部衛生組合廃棄物の処理及び清掃に関する条例の制定についての二件が議論され可決しました。これから、四月に開始される新たなごみ処理とこれまでのごみ処理への転換がスムーズに移行されるように市民の皆様への理解が進むまでの期間についての考えなども議論されました。

今まで燃やせるごみ・燃やせないごみに分別してきましたが今後は、ごみの種類により細かく分別されますので分別の間違いが生じることも十分想定されています。一日も早くご理解、ご協力して頂きますように、事業の推進を議会としても求めていきます。

留萌消防組合議会報告

議長 松本 衆司
平成二十四年度留萌消防組合議会第二回定例会は、十二月十九日に開催されました。一般質問では議員が「留萌消防庁舎改築について」として庁舎の現状・建設候補地・今後のスケジュール等について管理者に答弁を求めました。

その後、平成二十三年度留萌消防組合一般会計歳入歳出決算を認定、続いて平成二十四年度一般会計補正予算を承認し、最後に、昨今普及しつつある電気自動車用急速充電設備を設置する際の位置、構造および管理について新たに基準が示されたことを受けて、留萌消防組合火災予防条例の一部を改正する条例制定について承認し、閉会しました。



議会活性化推進特別委員会の報告

委員長 野崎 良夫

議会基本条例制定に関する先進地視察について

平成二十四年十月十五日

・名寄市、土別市

・議会基本条例制定へ向けて先進地への視察を行い、制定までの経緯、内容等の調査を行う。

・参加委員数 十名

両市議会における基本条例の動機や内容、策定までの経過において紆余曲折があり、策定までに多くの苦労があったようだ。また、両市議会ともに基本条例策定により、議員各個人の意識改革が進み議会運営に効果があったとの感想を得たが、一方では議会報告会の参加者が少ないことなど市民の関心が薄いのが実態であり、制定後の課題も多い現実があった。

今回の視察については、議会の役割と責務を見直す貴重な機会となった。その主たるものは、議員自身が

条例制定の意識をしっかりと認識し、議会運営や議会の機能強化を進めるとともに、地域性を盛り込む必要性を強く感じたことである

また、当市議会において議会活性化の取組が進められている中、市民の意見を反映する手法など議会運営上の課題も多いことから、両市の条例策定までの経緯と実績を参考とし、当市の調査研究に活かしたい。

第四回定例会への報告

一、今後の対応について

第一・第二小委員会及び議会基本条例策定作業チームは、平成二十五年の二月中旬を目処に残りの課題についての整理をする。

二月中旬の特別委員会では、来春の四月以降の議論展開の方向性を出す。議会基本条例策定作業チームは平成二十五年の四月以降、条例素案策定に向けて作業に入る前提で議論を進めていく。

議会を傍聴して

白鳥 信一

塩見町・三泊の両地区は、三泊埠頭から飛来する粉塵に長い間悩んでいます。粉塵により、窓を開けたり外に洗濯物を干すことも出来ず、道路や家の壁が黒く汚れますが、何よりも健康被害が心配でなりません。議会において、市長からは、防塵フェンスの設置は財政的に難しく、又、風向きの変化を予測する事も困難である。粉塵が飛ぶ場合においてはマスクの着用の方策研究が必要である。など答弁がありました。言うまでもなく市民はだれも、市の発展や、企業の繁栄を望んでいます。しかし、事業そのものが、住民の生活を脅かしている、この問題を議会が掌握し、更なる議論を重ねて頂きたいと切望いたします。

初めての傍聴、選ばれた議員の方々がどのような質疑応答を繰り広げるのか興味津々、会議室へ。んー予想外の傍聴席の狭さ、少なさ。これでは十人も入れれば満席になる。

市民の関心はあまり高くないのかしら……。七名ばかりが席に着き、間もなく予定通り会議が始まった。議員席に三、四の空席。多いのか少ないのか、初めての私には不明。冬の市民生活、農業政策と議員の質問、市長、農業委員の答弁が続く。とりわけ空家対策での応酬は深く執拗で思わず身を乗り出して聴き入ってしまった。質問、答弁、的を得た見事な応答に感じ入りました。唯、今後ますます問題となるであろう事務柄ゆえ決定打が出ないままタイムオーバーは残念。条例作成に踏み込んでほしいのは、少々はゆさ残るやり取りではありましたが。最後に地方議会は市民にとって身近な問題を討議する唯一の場。討議の内容が濃かっただけに時間の束縛が……。私には議長席の巨大なデジタル時計が少々鼻に付く一時間でした。

北浦 和夫

議会広報

特別委員会から

二〇二二～二〇二三年に向かう年末年始の騒がしさの中で、驚く事態が起こっていました。

世界ではリーダーが変わり我が国では新政権が誕生し国の政界地図が大きく変わりました。留萌では近年に無い超暴風雪に見舞われ、市民生活に大きな影響を与えました。財政難と厳しい不況の「時」を過ごした留萌市民にとって安心して暮らせる新年で有ってほしいと望む声が聞こえる様な気がします。市議会も「新しい息吹」で市民に視線を向けた活動が、求められているのではないかと……?

- 委員長 菅原千鶴子
- 副委員長 鶴城 雪子
- 委員 燕 昌克
- 川口 宏和
- 天谷 孝行

広報に対してのご意見ご要望をお待ちしております。